



實語教書本

9
4084
1



門 口 〇
號 4084
卷 1

中澤道二翁閱

畫本實語教

浪集少肆

三書房梓

繪本實語教序

竊物也故世亦行ハ海之ヲ既久シ

昭和十六年一月十一日寄
尼野實英氏贈

着者子是故讀之其畧ヲ爾下天
其精を貴之也 盤石堅剛



鑑を絶たさるの阿多ハ花といふ也
成碎 鑑たる体者眼申す

三書房

をふもりの巻を字々業々くく倦

たを解く沈潜反復する時、自其

味を去る其益を得たものありむ学

習の二字皆果てたるものなりけ

るに殊有りといへども報功を加へられ

宝細なるものなりけ良璞有りといへ

ども玉人の手を経ざると光曜を

流るもの一人亦然り學子に法をば才

習をたまたまと解け故に學子に就く

以其性を解け一極に因て其才をた

習は明あるとき一極自身齊家

おいて何の疑く有りむ世の代も

實語義書

戸

二

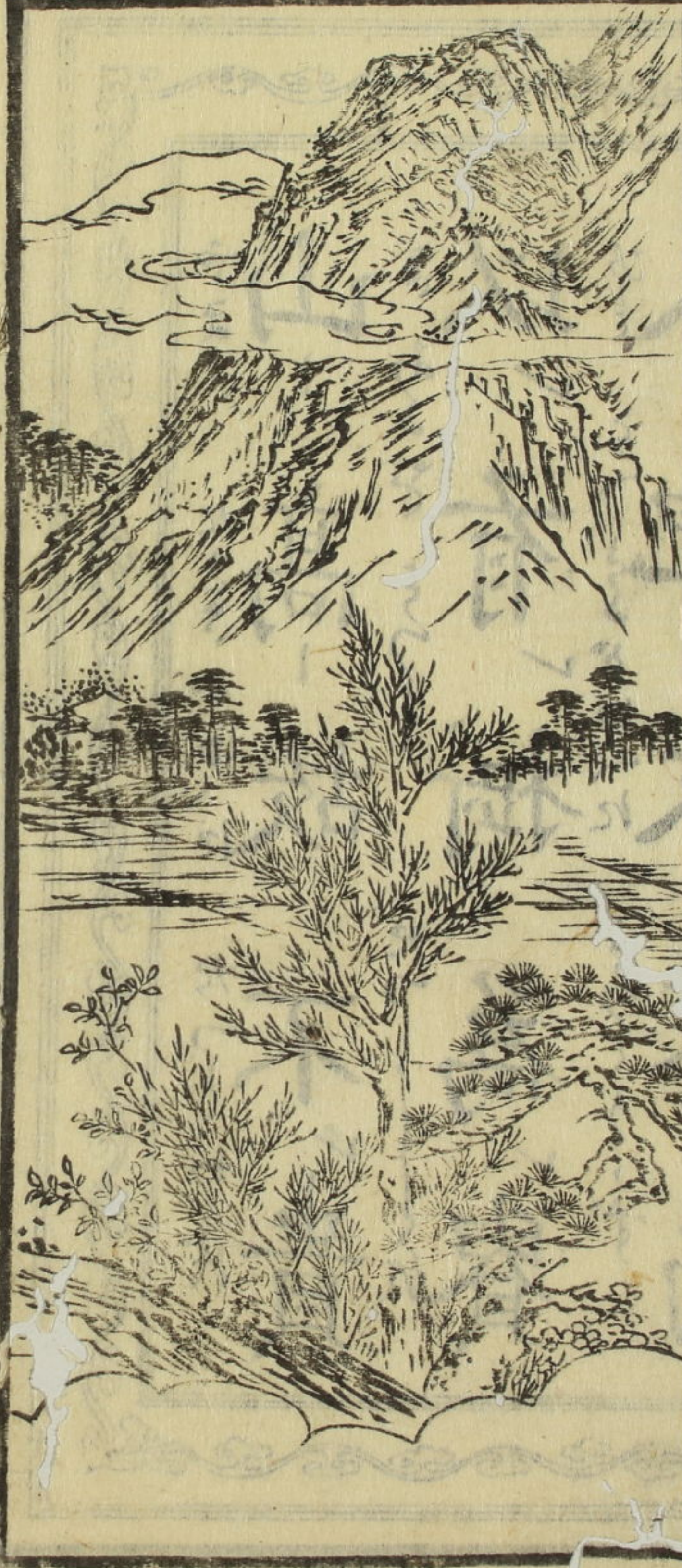
三書

の^{たう}質^{たう}あり^す既^す小^{へん}漏^{ろう}成^{ちやう}く^は松^{しょう}木^{ぼく}よ^こ上^の
む^とと^し一^あ日^い来^き木^こて^き予^よの^し席^{せき}を^は後^ご予^よの^し五^ご
信^{しん}を^は顧^こる^るは^は其^{その}志^しを^は遂^{すい}せ^しと^と云^い爾^に
有^あり^し積^つ元^{げん}年^{ねん}辛^{しん}酉^う仲^{ちゆう}冬^{とう}

中津道三自序

山^{やま}一^い高^{たか}一^い故^{ゆゑ}不^{たつ}一^い貴^{かゝ}
以^も一^い有^あ一^い樹^{じゆ}為^{たつ}一^い賢^{けん}
人^{ひと}一^い肥^ひ一^い故^{ゆゑ}不^{たつ}一^い尚^{かう}
以^も一^い有^あ一^い智^ち為^{たつ}一^い賢^{けん}

夫山の要たるも 樹木生れあり 禽獸も 人の用に申れり
 たゞいづにさく大あり 樹もさく 禽獸も 人の用に申れり
 何れも血もさくものなりけむを 端にさく
 山あり 樹あり 禽あり 人の用に申れり
 油も 廣くさく 魚も 沢にさく 田に 潤けれども 樹あり 一粒も 堪せぬ
 用あり 人の肥大あり とも 是の同なる 智め 人の肥大あり とも 是の同なる 智め

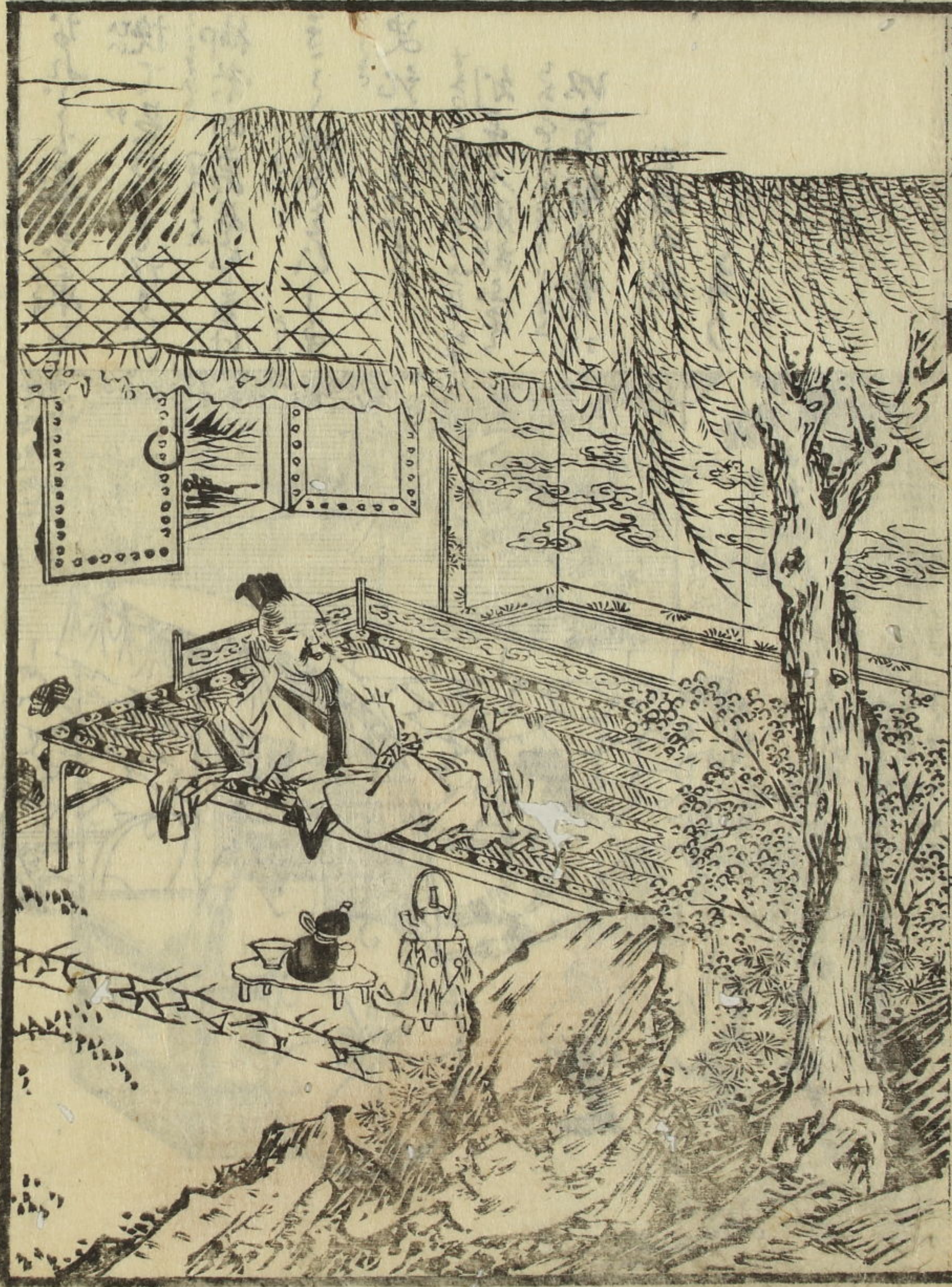


唐土戦國の時齊の王
 に晏嬰あんゑいといふ智者あり
 別の長曰あながち又斗りよてその
 兒小こにんのごとく醜みにくといひ
 とも齊の丞相せいしやうとて
 四方の敵國にあつて辱
 しめをうけび國固こく法
 一を晏嬰が智術よ
 りむとてその御者の夫
 りの長八尺はちしやくにあまりの毛
 白く肥大ふとてよを思ひ



ちれども墨子すみこが車を
 挽ひて居たりとせむり
 御者の妻つまをまけ
 きていく暇ひまをとひしり
 史記しきありとせむり
 別是人肥故まはるひとふとゆへふま
 以有智ちを貴たかし
 りあり





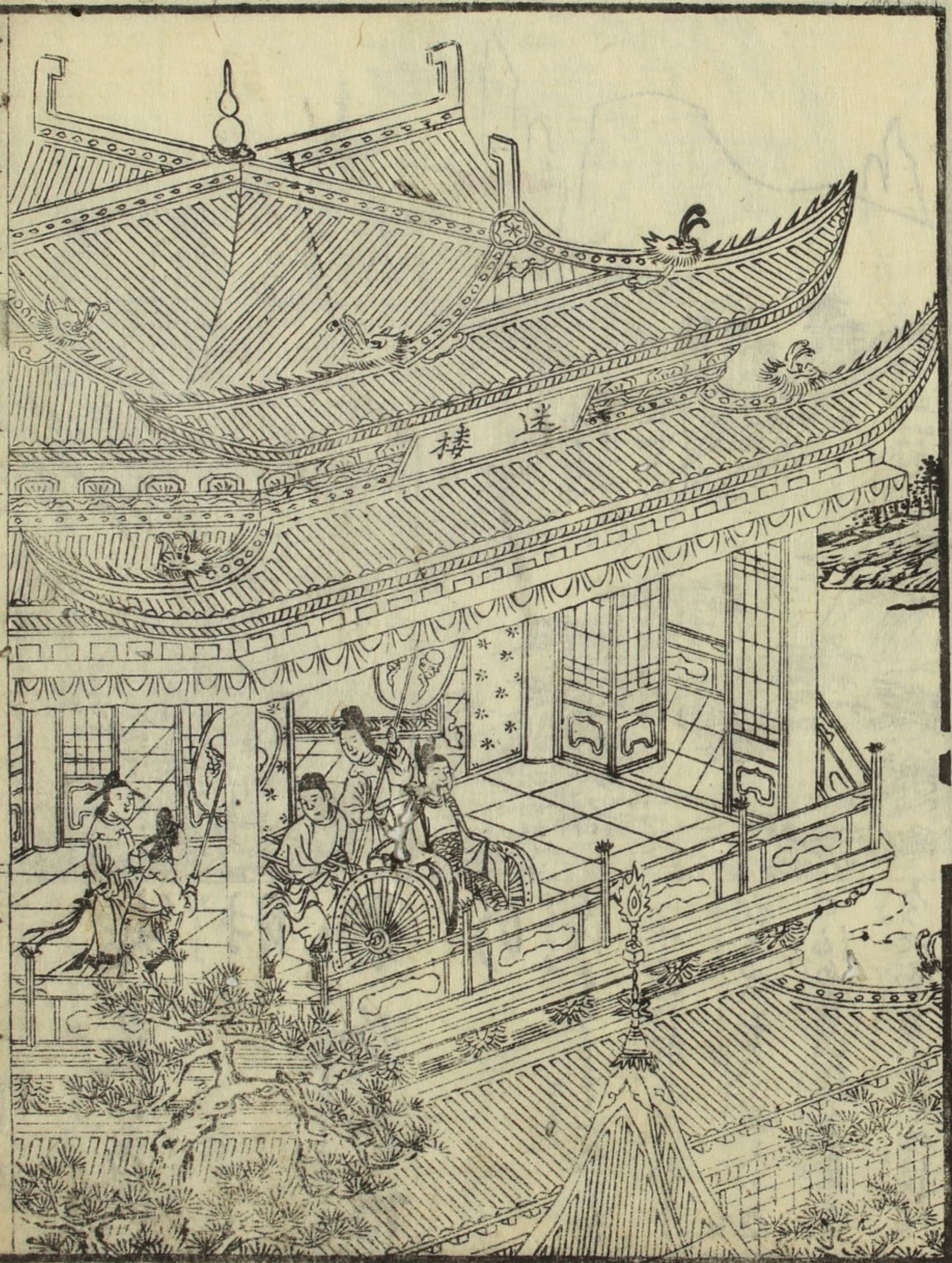
富是一生財
 分減即在減

富貴は人の心も可たれども心は人の富貴を
 らんや物れどもおのれ一人富貴なりとも地をこ
 りては巨万の富貴も一生の財なり

富貴は人の心も可たれども心は人の富貴を
 らんや物れどもおのれ一人富貴なりとも地をこ
 りては巨万の富貴も一生の財なり

富貴は人の心も可たれども心は人の富貴を

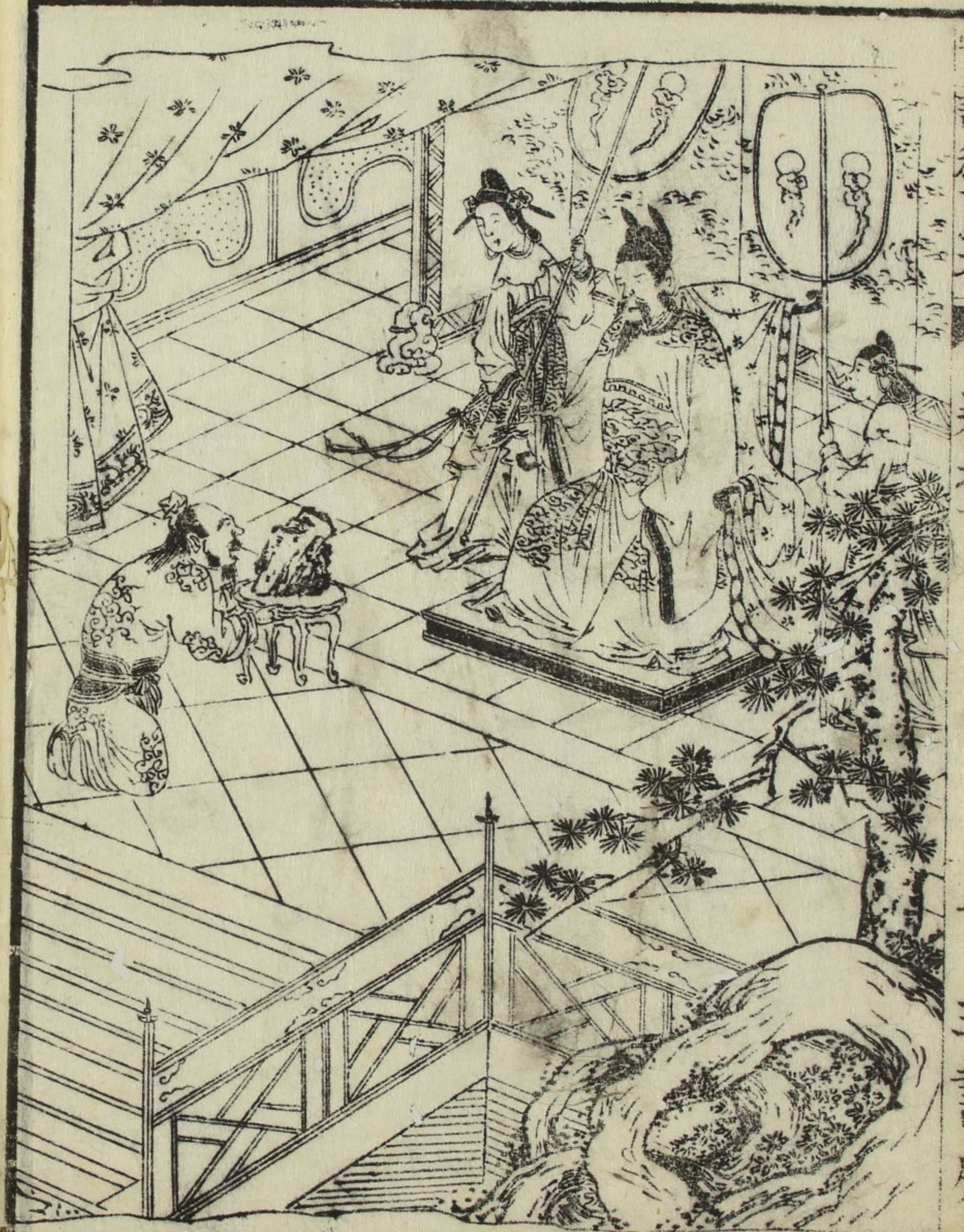
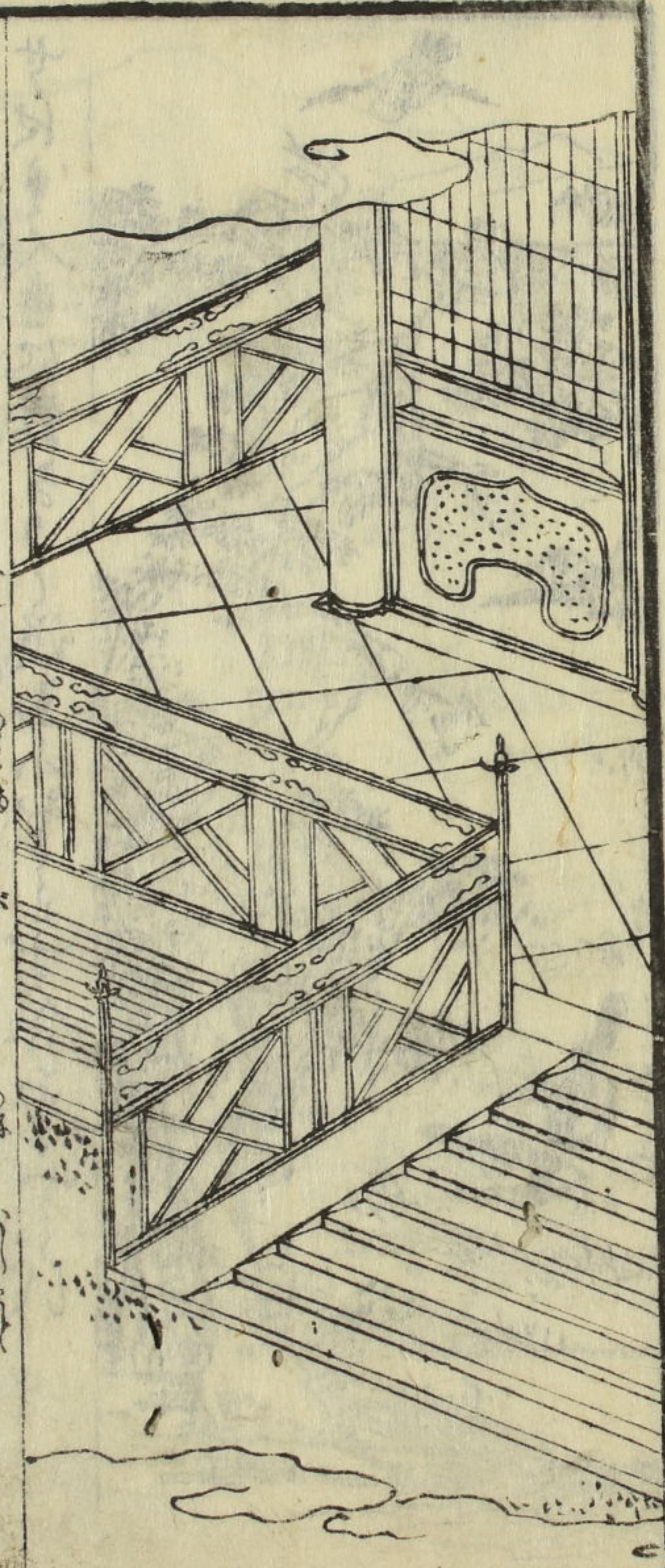
漢お隋の文帝とせし天子男に儉弱をとり官庫に積る合報幾億万と
 つるをちげ文帝崩らひ皇子煬帝位に即てより奢りに去り海を
 溺れ高橋を築廉に造らせ遠橋と果て車ふのりて樓中を徑來し武
 里れ河をあらたに堰せ楊柳と植負女として統舟と常しあ玉の費
 たとの日づいしと顧とよれ終に奸臣のふに命をおく天下一く
 李唐れ有くはれり人のあつるこの信ますんばあふりび



漢書卷之四十四上匈奴傳第七十四上

玉不磨無
 光
 無光為石
 尾

下和が照るも磨らざれば常乃石に異あること
 人も生質乃咽徳を内に備へぬれども學問の力
 以て之を磨き出さざれば本物の光徳なきこと
 智者の光徳てはひるや一勉て正しき教へを
 ままび問ふ一聖人も物々道を守て之に
 死するも可なりといふ言ひ



言部集卷六
 七
 三書房

夜光の珠は宝に天下の寶あれども方尺の器に色び人の性に倚り
 一本松の明徳は天下國家を治めまほしき安んじ世一場のまこと
 おろかしくや露の大聖なるもまほしき人百あり唯ま性の善る
 る賢者もく磨るまほしきもの二つありて或は賢者ありあるは愚者
 此くならりまほしき露の衣服をきて露の言をまほしき行の露のまほ
 せばそ人恵に露ありて涙ありて涙ありて涙ありて涙ありて涙ありて



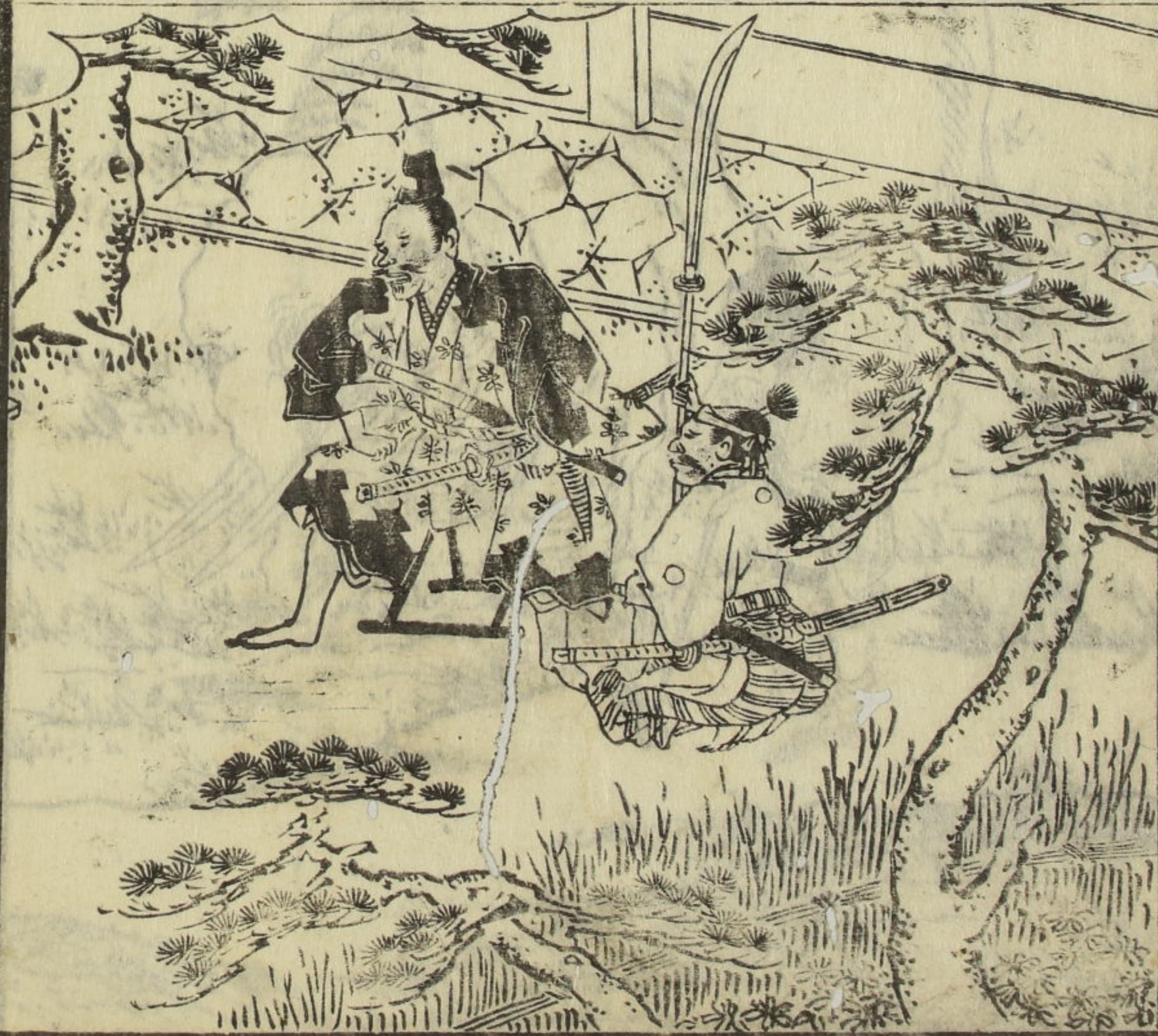
人 不学 無

智

無智 為 愚

人

昔法奥國に親を殺せ
一若ありはのちめて捕
へく獄に下しそ罪を
弘明するに比者さうに
服せしめて曰く凡人をこ
ろす者ハ死刑にせられ盜

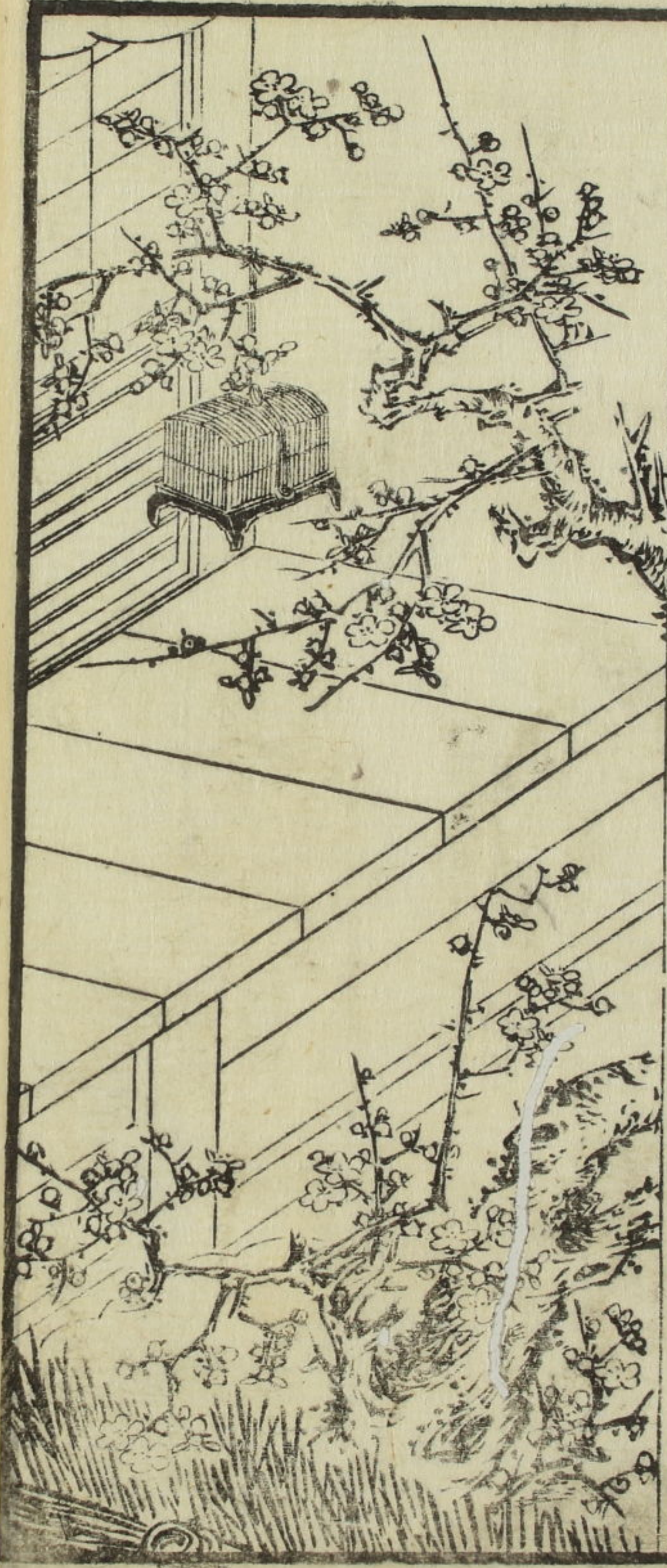


するものハ罪の軽重に依
てさほぐの刑あり我が
親を殺し殺しハ重
罪を我つらひかごとく
抑まされ罪あるや
玉の守り悪あるをあら
せ獄中に捕てまを凌
しむるに三年に始
て五常五倫のたをあら
らぬ親を殺しの大罪を
しむるで刑さるるより
人さされがあらび初
して罪とおもふるハあ
まればいふに何は



みのみごころいほ存のこころのこれあはび言はれ考きも教ゆれはう
 あらひらあれた格や崩れけそのこころもさほぐの言をともひ人の
 不能なるにともあふまらぬ折人のあのおの重むれのちりま
 ぢごびして石忠不孝をひひあうびして

不義われをさひも金致も
 おしり是を智るをも思入におしり



倉内財有朽

身内才無朽

不^ふ^た多^たりて由^ゆ且^じ貴^きを
ほめ^ほめ^め雲^{くも}のご^ごと^とと^とは^は足^あ
ハ^ハれ^れは^はり^り車^{くるま}の^の法^は法^は盛^{さか}
を^を身^み身^み軀^く庭^{てい}の外^{の外}戚^{せき}
して^{して}大^{だい}政^{せい}大^{だい}臣^{しん}の^の言^{こと}を
と^とけ^けが^が一^{いつ}属^{じゆく}を^を誅^{しゆ}
例^{れい}あ^ある^る者^{もの}を^をこ^こ
と^とめ^めけ^ける^るも^も一^{いつ}と^とび
西^{さい}海^{かい}の^の波^{なみ}浪^{なみ}の上^{の上}ふ
た^たま^まひ^ひり^りま^まり^り門^{かど}を



と^とく^く巨^{きょ}魚^{ぎょ}
の^の腹^{はら}に^に葬^{むすぶ}り^り一^{いつ}朝^{あさ}の^の雲^{くも}
と^と消^{しょう}ゆ^ゆく^くそ^そ念^{ねん}の^の
肉^{にく}の^の付^つ方^{かた}の^のよ^よれ
富^{とみ}を^をい^い忽^{たち}に^に
る^る形^{かたち}あり^{あり}眩^{くら}せ
曲^{まが}て^て枕^{まくら}を^を
瓶^{びん}の^の飲^{のみ}に^に糸^{いと}
を^を改^{あらた}め^めざる^{ざる}願^{ねん}
回^{まわ}り^りの^の徳^{とく}ハ^ハ天^{てん}地^ち
と^とま^まる^るを^を目^め
う^うす^すぶ^ぶと^とと^とを^を
身^みの^の内^{うち}れ^れす^すは^はち^ちる^る
こ^こま^まり^りと^とり





漢書に陳平といふ智
能の人あり楚を去て
漢に入る途に河あり
舟をこめて既川中
に在る舟を陳平が囊
中を奪入るは其
心あり陳平を去るは
とさうりえ其一歩乃
絆もあければ衣を脱
て裸になり舟より
かたりて船を押しり



舟公を襄中堂を
入る要めを止めこ
る陳平をむふの
畔に送りり陳平
が弟の内れは盜賊
も奪入る河を去り
舟を令かこついに
漢のにおおし
かあり

日りにい後の合戦のあはれも揚の御をせんと勵たげ多ひも九こ岩間渡を
 落おちしきして北陣に人ひと多し死し言ことなきはばして再び岩の手にあはれと揚
 成なりす一板いついた後合戦ごがくせんもまり一いつ付つ死しとえ勢せいを究きうめまき春届はるきをあつめ
 あれの盛さかあぐれかど一憤ふん然ぜんとして出い平へいが岡おかの古ふるを同どうく言ことやると返かへして
 逆陣さかれつと信しん言げん怒いかて岩間いわまをめよせ切せ後ごして信しん病びやうの名なを言ことせよと作あ作せ
 くれ岩間渡いわまがたをさうと流ながしそれごとく腹はら病びやうのそのはひもいふと
 にく教しやう行ぎやう言げん録ろくを物ものの家いえにそこどくの令しん報ぱうを狩かりひゆに合戦がくせんに勝かちむ
 ごとには令しん報ぱう小せうひひれ終つひに二ふた友ともの名なを多く信しん病びやうの名なをとりていひば
 狩かりへ令しん報ぱうを洞どう川がわに投な捨す今いま二ふた友とも戦せん場ばに越こえり時とき再び信しん病びやうに
 逃にげへ死しを物ものも恨うらむさうと信しん言げん怒いかてま特とくのこにさひ
 令しん報ぱう跡あとひゆしうれを後の神かみをえしゆふに人ひと並ならむるのまをいふあり
 てまに信しん病びやうの武ぶ士しあはび言ことをいふるれば珠たま小せう令しん報ぱう八はち日の言ことに
 實語教画本卷之終

まじりていふるまじり

